

27年度 第1回 経済成長のけん引分科会 議事録

(1) 日 時：平成28年1月15日（金） 11：10～12：20

(2) 場 所：えーるピア久留米 2階 205学習室

(3) 出席者：ビジョン懇談会委員17名（欠席委員 1名）

事務局2名

各市町企画担当職員、各ワーキンググループ職

※ワーキンググループは以下WGと表記

(4) 次第及び議事： 〔○…委員質問・意見 ●…事務局等回答〕

1. 開会

2. 委員の紹介

3. 議事

(1) 都市圏ビジョン（案）：将来像の実現に向けた具体的な取組みについて

〔産学金官民が一体となった圏域の経済成長等の推進体制の整備について説明〕

（質疑なし）

〔地域資源を活用した地域経済の裾野拡大について説明〕

○アンテナショップ事業について、首都圏で情報発信ということであったが、この圏域に人を呼び込むのであれば、福岡市内が有効ではないかと考えている。天神界限での出店についても、あわせて検討をいただきたい。

●人を呼び込むという視点、特産品を売込むという視点のそれぞれで、どのような地域で、どのように売り込むかを考える必要がある。

今回、出店場所を首都圏と設定したのは、この圏域の認知度を高めたい。また、この圏域のファンを増やしたいということから、全国から多くの人が集まる首都圏でのアンテナショップ出店を計画させていただいた。

福岡市内でのアンテナショップについては、首都圏のアンテナショップと並行して取組んでいってもよいと考えている。委員の皆様からのご意見やご提案により、よいものを作り上げていきたい。

○物産展の共同開催事業について、この事業にも観光情報や移住促進に関する視点を加えてはどうか。

●検討させていただく。

○アンテナショップ事業について、莫大な費用がかかるとともに、競争が激しいところであり、圏域として何を売っていくのかということを確認にしないと知名度の向上につながらない。集客が多い企業との連携や都内の移住希望者が集まる場所での期間限定のショップというやり方もある。ターゲットにあわせた事業計画となるよう十分な検討をお願いする。

○若年者就職支援事業について、この地域は仕事がないのではなくて、会社と就職希望者のマッチングがうまくできていない。いかに学生を圏域外に流出させないかという視点を入れ込む必要がある。

○圏域には色々な素材はあるがブランド化ができていない。物産展やインターネットショップの事業を効果的なものにするには、統一ブランドによる一体的に圏域の産品を売り出していくような視点が必要ではないか。

アンテナショップ事業については、圏域内の直売所との連携の視点も加えたい。

●インターネットショップについては、圏域外に圏域の商品を売り出す視点のもと、小規模事業者の

出店支援を目的として、セミナーを実施したいと考えている。

- 既存のアンテナショップでは、直売所とのテレビ電話での中継などを実施しているところもある。アンテナショップでの事業を計画する中では、いただいたご意見も参考し、検討をしていく。
- 事業実施には予算が絡んでくると思うが、現時点でどのような事業実施の計画となっているかを教えていただきたい。
- 事業実施については、構成市町の財政部局との調整が必要である。このビジョンで掲載する事業については、計画期間である5年間のどこかで事業化したいと考えている。したがって、来年度からすべてを実施するというのではなく、財政部局との調整のもと、実施できるものから順次取組んでいく考えである。また、懇談会でいただいた意見については、事業を進めていく中で反映をしていく。
- アンテナショップ事業について、運営は直営方式、委託方式のどちらを考えているか。
- 委託方式であるならば、具体的な取組みのアンテナショップ、インターネットショップ、物産展、販売力強化の事業を一つにまとめることで一体的な対応ができるのではないか。
- アンテナショップ事業の運営は、民間企業への委託方式を考えている。
- 事業の一体的な取扱いについては、検討し報告させていただく。
- インターネットショップ事業に関連して、各市町が実施しているふるさと納税の返礼品に、圏域共通の商品などを加えてはどうか。
- いただいた取組みの視点は、面白いと思う。今回提案しているインターネットショップについては、出店希望事業者への支援を目的とした事業として計画しているので、いただいたご意見については、この事業の次の段階での対応として考えさせていただきたい。
- 現状と課題に対する情報提供がない中で、具体的な取組の審議がされているが、これは、推進協議会において一定方向性が決まっているという理解でよいか。
また、それぞれの事業について、事業の見込額を記載することとなっているが、難しいのではないか。
- お示ししている具体的な取組は、圏域の地域資源や現状、課題を踏まえて、推進協議会で協議をした中で、出てきたものであり、これだけが今後、この圏域で取組む事業とは考えていない。新たな取組みや事業の方向性の修正など、委員の皆様の意見やアイデアを反映し、作り上げていきたい。
- 事業費については、ビジョンへの記載が国の要綱に規定されており、目安としての額を記載させていただく。
- ここでの取組みの対象が主に会社を対象としたものとなっている。ものづくりの分野では、面白い取組みを個人でやられている方が多く、このような方々への支援や連携、活用による地域の活性化の視点が必要ではないか。
- 検討させていただく。

〔地域産業の育成について説明〕

(質疑なし)

〔戦略的な観光の推進について説明〕

- 福岡県としては、うきは市、大川市をはじめとした久留米地域は、今後の観光分野での可能性を持った地域として、非常に期待をしており、商品開発などに力を入れていきたいと考えている。そのような中で県としては、東アジアだけではなく、欧米諸国からの旅行者への対応にも力をいれたい。福岡県と久留米圏域での共同歩調をとっていきたい。

- 海外の方を視野に入れた観光商品づくりも大事ではあるが、それよりも受入れ環境の整備がもっと重要である。海外の方に来てもらうための環境整備の連携に取り組んでいただきたい。
- 現在、海外の方の受け入れ態勢に関する内容は、盛り込んでいない。重要な内容であるので、盛り込む方向で検討させていただきたい。
- 農家民泊による就農体験などの取組みを圏域で特区申請してはどうか。また周遊マップ英語版の作成など連携した取組みをもっとすべきではないか。
- 農家民泊については、ご意見としていただき、今後研究していく項目とさせていただきたい。
- 圏域での連携については、記載している取組みは、実施の初期段階では一部の市町との連携となるものもあるが、最終形としては全ての取組みを圏域全体の連携により取り組んでいく考えである。
- 観光ポイントの整備の視点がない。観光客の集客に向けてWi-fi環境の整備やQRコードによる観光案内などの整備を行ってはどうか。
- 海外の方の受入れ体制と合わせて、次回までに検討をする。

(2) その他

【次回、分科会の案内】

- これで本日の懇談会は終了する。